

講義名	対1)国際金融論			授業形態	
担当教員	羽森 直子	開講期・曜日・時限	前期 水曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

国際金融論は、経済学の主要分野の一つである金融論の応用分野で、その内容は極めて多岐にわたっており、変化も激しい。しかも、世界規模でヒトやモノ、お金の行き来が急速に拡大するというグローバル社会を迎え、国際金融論を学ぶ重要性は増している。
本講義では、国際金融論の基本的な事項についてできるだけ平易な解説を行い、受講生の皆さんに理解を深めていただくことを目的としている。また、重要な経済問題である国際金融上の諸問題について考察する機会を提供することは、受講生の皆さんの視野を広げる一助になると考える。
本講義で扱う内容は、国際収支、外国為替、国際通貨制度、国際通貨統合、国際金融市場などである。

到達目標

- (1) 国際金融論の基本的な事項である国際収支、外国為替、国際通貨制度、国際通貨統合、国際金融市場等について内容を理解できるようになる。
(2) これらの基本的な事項についてこれまでの動向を分析することにより、国際金融の分野ではどのようなことが問題になってきたのかを理解できるようになる。
(3) (1)、(2)の学びにより、経済のグローバル化が進化する現代社会の中で、ますます重要となっている国際金融の分野の諸問題に関心を持ち、解決策についても自分自身の意見を持つことができるようになる。

提出課題

中間レポート課題
随時、宿題も提出していただく予定。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

随時実施する宿題については、提出後に授業で解説、講評を行う。
中間レポート課題については、提出前に採点に関する注意事項を説明し、レポート提出後には全体的な講評を行う予定。

評価の基準

中間レポート（約30%）
期末筆記試験（約70%）
期末筆記試験を予定しているが、状況によっては期末レポート試験に変更する可能性がある。その際は、講義連絡等で通知する。

履修にあたっての注意・助言他

国際金融論は金融論の応用分野なので、この科目をより深く理解するためには、ミクロ経済学、マクロ経済学、そして金融論を履修していることが望ましい。日本だけでなく、外国のことや世界のことに興味を持とう心がけよう。

ノートと筆記用具を準備して、必ずメモを取っていただきたい。
授業中の私語・携帯操作その他態度不良の場合、教員は注意をする。何度も注意された受講生は、次のステップとして得点を大幅に減点されることがある。

教科書

.使用しない。				
---------	--	--	--	--

参考図書

.12大事件で読む現代金融入門。	倉部康行	ダイヤモンド社	9784478028544

その他

毎回の授業で、資料を配布予定。また、その他の参考文献は適時紹介する。

授業計画

- 第1回 国際金融とは？
第2回 国際収支：特徴、経常収支と国民経済
第3回 国際収支：国際収支統計の項目と特徴
第4回 外国為替：為替相場
第5回 外国為替：外国為替市場
第6回 外国為替：為替相場決定理論（購買力平価説、金利平価説）
第7回 外国為替：為替相場決定理論（予想、市場介入）
第8回 国際通貨制度：意味と機能
第9回 国際通貨制度：歴史（金本位制、ブレストンウッズ体制）
第10回 国際通貨制度：歴史（ニクソンショック、変動相場制）
第11回 国際通貨統合：欧州通貨統合の歴史
第12回 国際通貨統合：欧州通貨統合の実現
第13回 国際通貨統合：欧州中央銀行
第14回 国際通貨統合：欧州通貨統合の評価、ユーロ危機
第15回 国際金融市場

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各回の講義ノートと配布資料の内容について復習し、内容を理解しておくこと。（1時間×15回=15時間）
数回提出を求められる宿題の作成にあたり、調査、まとめを行うこと。（15時間）
中間レポート、期末筆記試験対策（あるいは期末レポートの作成）にあたっては、各約1か月間にわたり資料や文献を調査し、レポートを作成、あるいは講義ノートや配布資料を復習して試験準備をすること。（30時間）
(合計60時間)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

到達目標(1)～(3)を達成することにより、経済学部経済学科ディプロマポリシー(DP)に貢献することができる。具体的には以下のとおりである。
これら大学の学制的成果の基礎を身につけ、現代社会の諸問題の一つである国際金融に関する諸問題について幅広い視点から考察し、課題を提案することができるようになる。
世の中の動きを理解して、経済問題を中心にした現代社会の諸問題の一つである国際金融に関する諸問題に解決策を提案することができるようになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

授業に関する質問をメールで行う場合、必ず大学から配布されたアドレスから送信すること。